

庁舎・新福祉社会館建設 多くの課題を抱えて進捗に不安

焼却場跡地や貫井北町の中間処理場に移動して、その後庁舎等の建設に入っていると思っていましたが、東町や貫井北町での地域住民との協議が整わないことから、リサイクル施設を置いたままの建設も現実味を帯びてきていました。そして、今の計画では庁舎等の建設は平成33年度、清掃施設の再整備は平成36年度となっており、明らかに清掃関連施設を置いたままの建設になっています。議会から土地の有効活用への疑問や、工事中の問題などの指摘が何度か続いた後に、ようやく敷地内の移転も考えている旨の答弁が出るという状況でした。しかし、その敷地内移転でも更なる経費増となり、その暫定移転にかかる金額は示されず、また、暫定施設でも防音・防臭対策はしっかりやるとの答弁はあっても、かかる暫定移転にかかる費用は示されていないのが現状です。

●新福祉社会館建設場所決定の理由に駐車場の確保とあったが

市報こがねい12月1日号には蛇の目跡地の配置案がいくつか示されています。新福祉社会館を蛇の目跡地に持つていく方針を出した

時に、これからの福祉社会館には車で来やすくする必要があるとの理由がされましたが、担当委員会でされた説明では、駐車台数は庁舎だけでも100台の計画がされており、さらに新福祉社会館にもとなるともっと増えるはずの駐車台数は示されていません。その部分の質問にはこれから検討、とのことでしたが、蛇の目跡地を決定する大きな要素であるはずの理由にその根拠が示されていないのは大きな問題です。

●市議会では各会派の意見集約へ

例えば福祉総合窓口に関しての議会からの意見は、庁舎内に入れるほうが各窓口にすぐ繋げられるという意見が多く出されたり、また、9月議会では3500平米にこだわることなく市民要望の多い機能導入のために弾力的に見直せとの決議が反対なく通っています。その超党派の声を受け、12月議会では議員間討議を行い、市長へ届ける意見の集約を図りました。

今後2月頃には市民からの意見や検討委員会からの意見、そして議会からの意見を受けての基本計画が示される予定となっています。



更地になり所有者へ返還になる旧福祉社会館跡地

本来の福祉社会館建設を



超高齢社会となった小金井市、そして障がいがあっても地域で安心して暮らせる仕組み作りを進めていくためには、市民や市職員の意識の醸成と共に拠点づくりも欠かせません。特に小金井市はこれまでの財政状況から拠点づくりは遅れています。本当の意味での共生社会が実現できるよう頑張っています。

<http://igarashi-kyoko.com>

五十嵐京子

検索

小金井で元気に！ 小金井を元気に！

小金井市議会議員

五十嵐京子

通信
第47号

2018年1月発行

五十嵐京子を支援する会

小金井市本町3-8-9-312

電話 042-384-9920